

画像：NASA 水星探査機「メッセンジャー」が撮影した水星

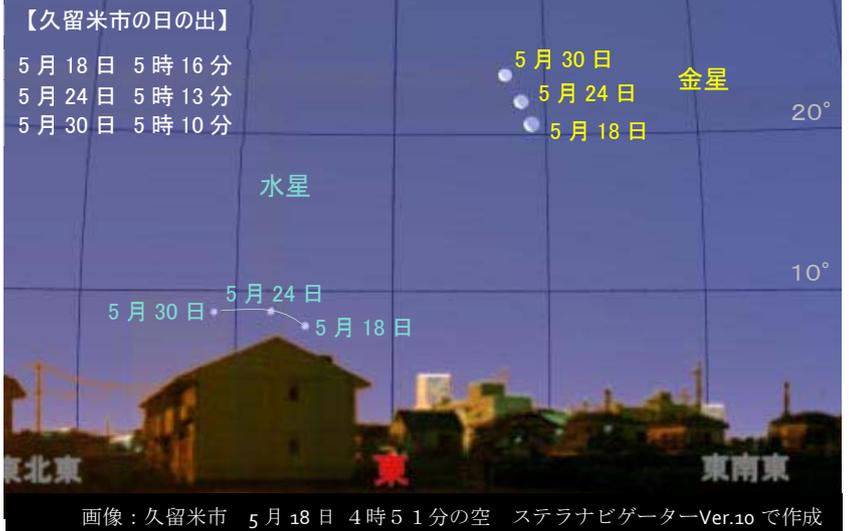
2017年5月中旬~下旬

あ が た そ ら
明け方の空で

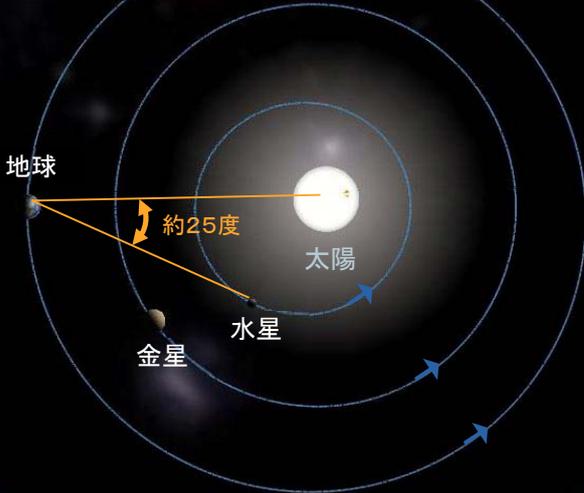
す い せ い み
水星を見よう！

発行：福岡県青少年科学館

水星は5月18日に西方最大離角を迎えるため、5月中旬~下旬にかけて、水星が日の出前の東の空で見つけやすくなります。右図は、日の出前約30分の水星と金星の位置です。図に描かれた「マス目」の間隔は高さ・幅ともに10度です。実際の空で観察するとき、こぶしを握って腕を思い切り伸ばしましょう。このときのにぎりこぶしの幅が約10度になります。にぎりこぶしを「ものさし」代わりにして、右図から読み取った水星の位置を探してみてください。近くには金星が明るく輝いていますので、目印にしてみるといいでしょう。



※青い矢印は各惑星が太陽のまわりを回る向き、
青い線は、惑星の軌道を示しています。
※惑星の大きさは、実際とは異なります。



画像：5/18 8:24 水星の西方最大離角 Mitaka Ver.1.3.1で作成

水星の『西方最大離角』とは？

水星は地球の内側を回っている惑星で、このような惑星を内惑星と言います。左の図からも分かるように、内惑星は地球から見て太陽の東側に行ったり、西側に行ったりするだけで、決して真夜中には見ることはできない惑星なのです。また、地球の中心から見た太陽と水星がつくる角度には、限界があります。この限界の角度を最大離角といい、地球から見て水星が太陽の西側にあるときを水星の『西方最大離角』といいます。この『西方最大離角』のころは、明け方東の空に見えています。